

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ③①

『いのちの授業』

今月の言葉 『君がいてくれるから、未来もつながっていく』

『今、このときを「生き抜く」 生きているのは当たり前じゃない』

『優しさで、みんなの心はつながっていく』

『絶対、親より早く死んではいけない お父さんお母さんは、血の涙を流す』

(鈴木 中人)

自死の数が増え、命の大切さを感じ取ったり、生きている喜びを味わったりする機会の大切さが強く言われるようになりました。今日ほど命のバトンタッチ(継承)が難しくなった時代はありません。

最近マスコミに取り上げられ、話題となっている本を紹介します。『いのちの授業』をつくる(さくら社)です。この本は鈴木中人氏と玉置崇氏のお二人が執筆されました。鈴木さんは小学生だった娘さんを小児がんで亡くし、それがきっかけとなり、勤めていた会社を退職。「いのちの授業」に取り組み、すでに三十万人を超える人たちが参加しました。玉置さんは学校と教育委員会でお仕事をされた後、ICT教育や道徳教育の研究が認められ、大学の先生とされました。熱心に「いのちの授業づくり」に取り組んでみえます。津島市内の学校でも道徳の授業づくりの指導をしていただきました。

いのちの学び方には「いのちを実感する(追体験・想像)」「いのちの真理を知る(理解 人は生まれて、生きて、死んでいく)」「自分はどう生きるかを思う(思索)」の三つのサイクルがあります。この学びにより、いのちに向き合い、自分なりの答を急がずに探し、信じることです。

津島市では子どもたちが自分や自分以外の他の命と向き合うため、がん教育の出前授業を実施しています。学校医や市民病院の先生方にお願ひし、がんの基礎知識を知り、がん患者の人たちの思いを想像し、共に生きることを狙っています。先生方は沢山の写真やビデオを使い、視覚的にわかりやすいプレゼンを用意してくださっています。小・中学校両方で実施し、身近な命と向き合う授業にしています。

生き物の命と向き合う絵本がたくさんあります。ひろかわさえこさんの「まるごと・カバ」(あかね)は優れた作品の一冊です。私の大好きな絵本です。ユーモアあふれるカバの生き方を通して、生命の大切さを教えてくれます。

一度ご覧ください。

令和4年10月11日

津島市教育委員会

教育長 浅井厚視